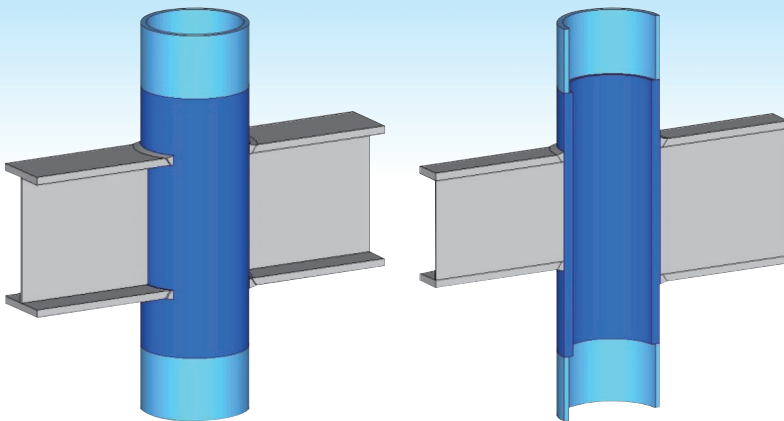


# 円形鋼管・角形鋼管 柱梁接合部設計法

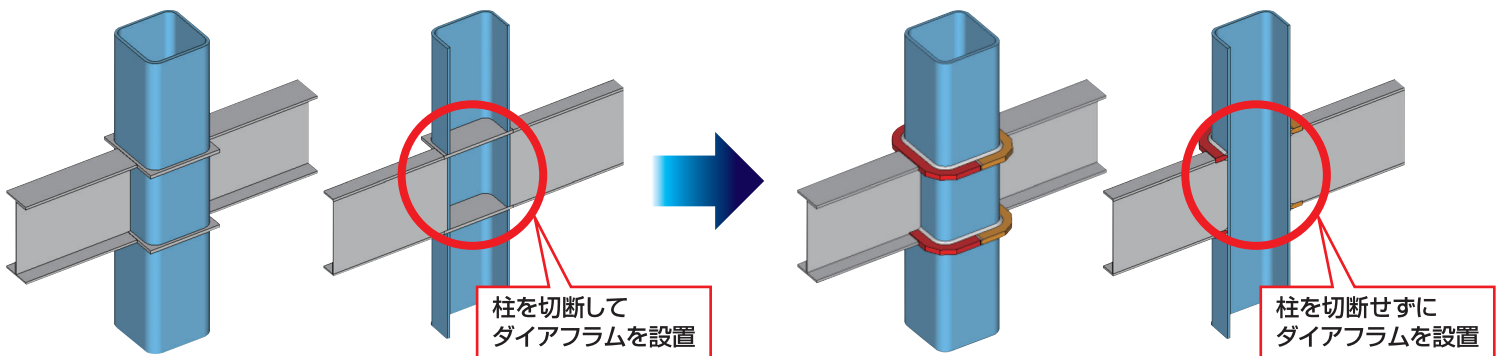
## 【ノンダイアフラム形式】円形鋼管柱梁接合部設計方法 ダイアフラムを無くしたシンプルな接合部



- ダイアフラムを使用せず、梁が溶接接合される部分の円形鋼管を増厚することで、接合部を適切に補強した、柱通しの接合部です。
- 梁を直接円形鋼管柱に溶接接合でき、外法サイズが同一であることから、すっきりとした外観を実現できます。
- 1カ所の接合部に、異なるせいの梁が接合される場合でも、ダイアフラムによる補強が不要なため、直接柱に接合できます。
- 日本建築センターの鋼構造評定委員会において技術審査を受け、評定を取得(BCJ-ST0183-01)しています。

## 【外リングダイアフラム形式】コンクリート充填角形鋼管柱梁接合部設計方法 合理的な柱梁接合形式

- 柱を切断せずに柱梁接合部を構成できる柱貫通タイプとすることで、加工工程および溶接量の低減を図った施工性および経済性に優れた形式です。
- 従来の外ダイアフラム形式に比べて、ダイアフラム厚を増加させることにより、ダイアフラムせいを抑えた形式です。
- 鋼管外部の突出を抑えることにより建築計画上の自由度が高くなります。
- 日本建築センターの鋼構造評定委員会において技術審査を受け、評定を取得(BCJ-ST0191-01)しています。



一般的な柱梁接合形式

外リングダイアフラム形式